

**2020年3月期第3四半期 決算カンファレンスコール議事録**  
(2020年1月30日実施)

**【2020年3月期（今期）の業績について】**

Q：セグメント毎に通期業績予想の修正理由を教えてください。

A：①産業・自動車用部品

半導体製造装置（SPE）用部品と、自動車のエンジンやギアボックス等を削る切削工具が大きく減少している。

②半導体関連部品

有機材料事業が黒字化し、2019年3月期（前期）に比べ採算は改善しているが、スマートフォン関連のセラミックパッケージが当初の計画より減少する見通し。

③電子デバイス

ディストリビューターの在庫調整が終わっていないことによる AVX Corporation の減少が主因。

④コミュニケーション

ほぼ横ばい。通信機器事業において、国内で端末の値引き規制などの影響を多少受ける可能性はあるが、大きな変化は考えていない。

⑤ドキュメントソリューション

主に為替の影響。

⑥生活・環境

ソーラーエネルギー事業において、メガソーラー案件の一部が今期から2021年3月期（来期）に延伸する見通し。

Q：第3四半期（3Q）は、自動車関連や産業機械市場向けは減少すると認識していたが、全てのセグメントで下方修正された。他の分野でも何か起きたのか。

A：自動車関連は、月を追うごとに悪化した。

スマートフォン関連は、夏場までは想定以上に良かったが、例年通り、夏場をピークに減少していった。第4四半期（4Q）までは下がり続けるとみている。

Q：スマートフォン関連の落ちは、部品の前倒し注文が要因か。または、最終需要の減少によるものか。

A：最終需要は想定よりも堅調だったと思われるが、前倒し注文による影響が大きい。

Q：下方修正の要因は在庫調整の影響か。それとも最終需要の減少によるものか。

A：「産業・自動車用部品」のSPE用部品と切削工具、「電子デバイス」のAVX Corporationは在庫調整の影響を受けている。それ以外は、在庫調整の影響は大きくないと認識している。

Q：自社の経営努力の取り組みについては、想定からの乖離はあるか。

A：前期に多額の一時費用を計上したソーラーエネルギー事業と有機材料事業は計画通り改善している。また、通信機器事業についても黒字が定着した。今まで課題事業だったこれら3部門の改善を進めることができた。

### 【来期の業績について】

Q：停滞している分野の今後の見通し及び、足元の受注状況について教えて欲しい。

A：「産業・自動車用部品」では、SPE用部品は確実に回復傾向にあり、来期はかなり戻ってくるだろう。一方、切削工具は、自動車市場に回復の見通しがないため、来期も苦戦しそうだ。

全体の受注傾向としては、5G関連でスマートフォンと基地局向けは想定以上の引き合いをいただいております、4月以降はかなり上向くと考えている。ソーラーエネルギー事業も来期に向けて大型のメガソーラー案件が動きそうなので、良いスタートを期待している。

### 【産業・自動車用部品】

Q：前期と比較すると、今期3Q及び4Qの利益水準はかなり低い。在庫調整以外に需要構造の変化などの要因があるのか。

A：利益の低下は、SPE用部品と切削工具の需要が大きく減少したことに加え、今期3件のM&Aを実施したことによる償却費等の増加もあり、実力以上に減益となっている。

Q：今期のM&Aによる費用は、来期以降、減少するのか。

A：例えば、無形資産等で定額償却する部分はあるが、今期と来期を比較すると今期の方が費用負担は重く、来期は確実に減る。

### 【半導体関連部品】

Q：4Qは大幅な減収予想となっている。これは特定の客先によるものか。

A：4Qの利益の低下は、スマートフォン関連の需要が弱くなっていることが要因。

Q：スマートフォン関連市場の環境は堅調だと思うが、下方修正をした理由は何か。昨年の夏頃に客先で部品の在庫を確保した反動の影響か。

A：そうだろう。昨年の夏頃まで需要は旺盛だった。直近では減少しているが、この影響は4Qで終わると考えている。来期に向けて多くの引き合いをいただいている。

#### 【本社部門損益】

Q：3Qの本社部門損益が例年より良い理由。

A：3Qの本社部門損益には不動産の売却益が計上されており、営業利益及び税引前利益に同額の影響がある。

Q：規模感は50～60億円か。

A：それくらいだ。

#### 【その他】

Q：中国の新型肺炎に関して。工場の稼働や客先への影響はあるか。

A：現在、春節なので得られる情報は限られているが、天津の太陽電池の工場と、大連の電動工具の工場は2月3日から、上海や無錫、広州などにある部品の工場は2月10日から稼働を予定している。

#### 将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2020年3月期第3四半期決算カンファレンスコール開催日（2020年1月30日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。